



完成した作品を手に持ち笑顔の浦井さん

輝いています

「縫製奉仕活動ボランティア」代表

ひと

わく い ひで こ
浦井 英子 さん

作品を通して地域に笑顔を

皆 さんから提供された生地で作ったエプロンや帽子などを作り、その売り上げを蔵市社会福祉協議会(以下社協)に寄附するグループ「縫製奉仕活動ボランティア」。その一員として20年以上にわたり、活動をしているのが浦井英子さん(68歳・中央1丁目)です。幼少の頃から手先が器用で、人形作りの講師をしていた経験もあった浦井さん。子育てが一段落し、地域で新たな一歩を踏み出したいと考えていたときに出会ったのがこのグループでした。心をこめた作品を通じて、多くの人に笑顔が届けられる活動に魅了され、週1回の活動では、社協か

ら依頼を受けた品のほか、各自が好みの生地で作成し、裁断から縫製、仕上げまで一人で行うオリジナルの作品作りに精を出します。初めは人形用衣装とのサイズの違いに戸惑っていた浦井さんですが、持ちまへの根気強さで試行錯誤を重ね、今では月に10着以上の作品を作れるほどに。そんな浦井さんのモットーは生地を提供してくれた人への感謝を忘れないことです。「小さな布も無駄なく作品に生かします」と、限られた材料で丁寧な作りこんでいきます。そうして出来上がった作品からは、温かい人柄が伝わってくるかと好評を博し、なかには新作を求め、直接作業場に足を運ぶ人もいます。現在6人で行っている活動の場では、小気味よいミシンの音とともに、メンバーの笑い声が響きわたります。「雰囲気心地よいんですよ」と、口をそろえる皆さん。今月22日に開催されるボランティア・市民活動見本市(お知らせ版6ページ)では、お客さんの笑顔が一番の報酬ですと、浦井さん。これからも地域との絆を紡ぎ、人と人とのつながりを縫い上げていくでしょう。

今月の河鍋暁斎記念美術館

天才絵師の作品 蔵にあり

— No.14 —



かわなべ きょうさい
河鍋 暁斎
天保2年(1831)
～明治22年(1889)

浮世絵で時事的なテーマを扱う場合、架空の物語や過去の事件になぞらえたり、登場人物を変えるのが常でした。暁斎も、元治元年の長州征伐を蛙の合戦に代えて本図を描いています。それは向かって右に徳川家の裏紋

の六ツ葵紋、左に毛利家の沢瀉紋が見えることから明らかです。長州征伐は正月に決定し、8月に始まりました。本図の出版は3月と7月ですから、当時の版元がどれほど早く暁斎に依頼したかが分かります。お咎めを受けぬよう、暁斎の画号は「狂人」「狂者」となり、版元も「スハ井」という仮名を用いています。



暁斎筆「風流蛙大合戦之図」大判錦絵3枚続 元治元年(1864)

河鍋暁斎記念美術館 7月1日(土)～8月25日(金)

「写生とユーモア 動物さまざま展」
同時開催「第31回かえる展」

開館 = 午前10時～午後4時

休館 = 木曜日・毎月26日～末日

ところ = 南町4-36-4

入館料 = 一般540円 中学生～大学生430円

小学生以下210円 (20人以上の団体は要予約)

詳細 = 同館 ☎441-9780



展覧会の詳しい内容は美術館のホームページをご覧ください

